

令和7年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立坂戸小学校
実施日	2026/1/9

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	本校は、目指す学校像の実現に向け、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	・学校便り等により、校長の学校経営方針や教育課程の様子を伝えることができていた。 ・教職員全体で組織的に取り組んでいる。	A	・学校便りや各種会議から、方針や重点がよく伝わってくる。 ・教職員の前向きな実践や保護者の好意的な意見からよい成果を感じる。
	2	本校は、災害や事故等に対する組織的な体制を整えている。	B	・毎月安全点検を全校で行っており、その都度対応できている。 ・特に北校舎の老朽化が進んでおり、廊下の床板が剥がれている箇所がある。 ・不審者対応についての学校の取組について、今後はより保護者へ発信する必要がある。	B	・開かれた学校を目指すには、防犯意識と施設の充実が必要である。 ・学校内の整備が進み、安全対策に結びついていると感じる。 ・万が一の時に備え、引き渡し訓練は重要であると考える。
	3	本校は、働き方の改善を推進している。	A	・基本的に在校時間が年々短縮しており、働き方改革が推進されている。 ・管理職の積極的な声掛けが有効である。 ・業務量はなかなか減らせないが、その中で工夫し、極力仕事が偏らないようにしている。	A	・土曜日課を最低限にするなど、働き方改革の工夫が行われている。 ・管理職による積極的な声掛けや対応策がとられ、効果が現れていると感じる。 ・自己評価から、大変推進していると思う。
教育課程・学習	4	本校は、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組んでいる。(市重点項目)	B	・授業研究として校長及び主幹教諭が授業検討から関わることで、職員と共に授業づくりができています。 ・学校研究や授業研究会を通して、「主体的・対話的で深い学び」が推進されている。 ・研究グループでの授業研究会においても、指導者を招聘する機会を検討していきたい。	A	・授業研究会が積極的に行われている。 ・外部の指導者を招聘することで、第三者としての意見を取り入れながら推進している。 ・座席の配置など、学校全体として工夫がみられる。 ・授業づくりと共に行う等、管理職と職員の関係の良さを感じる。
	5	本校は、豊かな心を育む教育の充実を図っている。	B	・定期的に生徒指導・教育相談委員会を行い、児童の情報や支援について共有できている。 ・道徳の授業を充実させるため、指導者を招聘した研修や校内職員での研修を実施している。 ・児童の挨拶が少しずつ増えてきている。	B	・教職員の挨拶が活発化してきており、児童にも普及している。 ・教師の気づきや実践が主体的にとられていると感じる。 ・本校の研修の話聞き、道徳教育の重要性を改めて感じた。
資質の向上	6	本校は、体罰や交通事故等の不祥事を根絶するための効果的な取組を実施している。(市重点項目)	A	・倫理確立委員会を定期的に行い、職員自身が啓発を行っているため効果的である。 ・全体的に職員室の雰囲気がよく、風通しがよい。今後も、よりコミュニケーションが取れる工夫を継続していきたい。	A	・倫理確立委員会にて、教師自らがコンプライアンスを創り上げていると感じる。 ・様々な環境の児童がいる中、学校としての優しい対応が伝わってきます。引き続き、丁寧な対応をお願いしたい。
	7	本校は、不登校の未然防止や課題解決のための取組を実施している。(市重点項目)	A	・不登校児童への対応が組織的に行われている。 ・支援ルームや相談室の開設、校内通級指導の実施により、多様な児童の実態に対応できるよう配慮している。 ・今後も、個に応じた支援を全職員で行っていく。	A	・課題に対し、学校全体で対応する体制が構築されていると感じている。素晴らしいと思う。 ・担任に任せきりにしない組織的な対応が、成果を生んでいると思う。複数人で対応してもらえる環境を今後も継続してほしい。
学習環境	8	本校は、特別支援教育の充実を図っている。(市重点項目)	A	・特別支援教育についての研修を年度当初に行い、共通理解を図っている。 ・年度途中の入級があると担任の負担がどうしても増えるので、支援体制の充実を図ってきたい。	A	・小中で合同研修会が実施されたことは、大変よかった。 ・学校の重点項目でもあり、理解が進んでいると思われる。
家庭・地域との連携	9	本校は、積極的に家庭・地域等と連携・協働している。	B	・色々な授業で、地域の人材を活用している。 ・学校応援団の協力がありがたい。特に見守り隊は大幅に増加した。今後も増員を呼び掛けていくが、保護者にも町探検以外に依頼することも検討したい。	B	・地域・保護者への協力依頼がよく伝わってくる。 ・地域・保護者の協力を得ることで、教師の負担が減り、児童にも効果があると思う。 ・学校応援団と学校のニーズを合致させることの難しさを感じる。
小中連携	10	本校は、小中連携を推進している。	B	・今年は坂戸中学校と合同で夏季研修会(特別支援教育について)を実施し、共に学ぶことができた。 ・小中連絡会の際に互いの学校の様子がわかるが、児童生徒についての話がじっくりできる時間の確保が課題である。	B	・中学校へ希望をもって進学できるよう、児童と生徒の交流の機会を持つことは、素晴らしいと思う。 ・小中共通の課題ではあるが、それでも以前より情報交換する機会は増えている。 ・中学校合唱祭の見学など、今後も児童の交流を継続してほしい。